

# 平成28年度 学校評価総括表

教育目標		基礎学力及び進路目標に応じた学力の向上、たくましい体力と強靱な精神力の育成、規範意識の向上と社会性の醸成を目指すとともに、人権を尊重する民主的な社会の創造に努める人間の育成を目指す。			総合評価	
運営方針		生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。			B	
平成27年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標			
キャリア教育の視点から教育活動全般を見直した。基本的な生活習慣の定着や規範意識の向上については、一定の成果はみられるが今後も引き続き「挨拶励行、正しい身だしなみ、時間厳守」の3項目について重点的に取り組む必要がある。 また、学習面においては、教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲向上に努めるとともに、計画的に生徒の学力向上や検定取得に向けた取組を深め、生徒が主体的に進路決定できる体制の整備に努める。		自らの進路を主体的に選択し、自らの努力で進路先を決定できる生徒の育成を目指す。	基礎学力の充実と学習意欲の向上			
			規範意識や社会性の向上			
			体力・精神力の向上			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 および改善方策
学習指導	①基礎学力の充実	BasicStudyタイムは継続実施。さらに内容の充実を図るとともに、家庭学習習慣を定着させるための課題等を計画的に課し、基礎学力の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BSTタイムそのものや学習に取り組む姿勢は生徒に定着したが、その時間だけの取り組みになっている者もいるので、系統だった学習に発展させたい。</li> <li>・各教科の取組として、計画的な課題を課していたが、それが家庭学習習慣の定着までには至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BSTタイムの趣旨や意義を生徒・教員ともに再確認すると共に、3年間を見通した学習計画(学び直しから進路実現へ)を立てた上での取り組みとする。また、課題の提出やBS審査テストの扱いを他の教科と同等のものとし、生徒に、BSTタイムも授業であるという意識を持たせる。</li> <li>・課題の提出率は良くなっているが、現在の取組は続けると共に、検定や進路を踏まえた上での家庭学習の重要性を訴えていきたい。</li> </ul>	地域の教材(歴史・文学)を学び、母校藍を育む教育内容の充実
	②授業力の向上	年2回の公開授業並びに研究協議を通して、授業力の向上を図ると共に、観点別評価について考察し、成績評価の在り方を検討する。	B	各教科とも、年2回の公開授業を実施した。他教科の見学者が少なく、授業後の研究協議が不十分な教科もあったため、観点別評価の実施にまでは至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業の日程表にその授業の研究協議の日程も明記し、授業と協議を一体のものとして考えていくと共に、先生方の積極的な参加を促す。</li> <li>・観点別評価に関する校内勉強会のようなものを実施し、実際に観点別評価を行う中で、課題等を洗い出していく。</li> </ul>	
生活指導	①礼法・マナー・身だしなみに対する意識の向上	登下校・授業の始業と終業時等を通じて挨拶や言葉遣い・身だしなみ等に対する生徒の意識の向上を図る。	A	身だしなみについては多くの生徒が良好な状況になっている。挨拶や言葉遣いについては、生徒によって個人差があるものの概ね良好である。	日々の積み重ねが大切となるので、地道ではあるが粘り強い指導の継続が必要である。	
	②基本的な生活習慣の確立	正しい生活習慣を身につけることから、遅刻や欠席・早退を減らす。特に遅刻については年間500以下を目標とし、時間を守る意識の向上も図る。	B	遅刻数については減少傾向にあり、目標としていた500という数値は難しい状況にあるが、昨年度を下回ることができた。	寝坊や不注意だけでなく、体調不良や通院による遅刻が多く、基本的な生活習慣の確立と体調管理への意識付けが大切である。	
進路指導	①進路先の開拓	企業との連携を密にし、求人への依頼と情報収集に努める。企業訪問を30社以上行う。	A	50社近くの企業を訪問し求人への依頼をした結果、多くの企業から求人をいただいた。今後も企業との信頼関係を密にするよう努めたい。	指定校求人をいただいたにもかかわらず、応募者が出なかった企業があった。早期に訪問し、今後の連携を密にしたい。	
	②多様な入試方法を活用した進学	専門高校としての特長を活かした入試制度を積極的に活用することにより、進学者を増やす。	B	進学者数は前年度と比べ大きな変化はなかった。AO入試により、早期に結果を出す生徒が多かった。	推薦基準を超える資格を取得をさせるための方策を検討したい。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 および改善方策
人権教育	①SNSに関わる人権問題の意識の向上	より生徒に届くような指導案を作成し、HRを実施する。生徒指導部とも連携を図る。	B	パワーポイントを使用して、SNS等の問題点等について展開した。一定の成果は見られたように思われる。	引き続き、HR及びそれ以外のあらゆる場面で、人権意識の向上を図り、自分と人権問題との関わり、自分とSNSについて考えさせたい。	
	②性的マイノリティーに対する職員の意識の向上	外部講師を招聘し、職員研修を実施し、性的マイノリティーの状況等について学習する。	B	昨年に続いて、外部講師を招聘し、実際のHR展開を想定して、職員研修を実施した。性的マイノリティーに対する職員の意識の向上を図ることができた。	来年度は、年間計画の中に、性的マイノリティー問題を位置づけ、HR展開を目指したい。	
文化活動	①読書習慣の確立	親しみやすく魅力的な図書室作りに努め、1日の利用者30名以上を目標として、読書習慣の確立を目指す。	B	書架の増設設置。寄付により蔵書の充実などが行われた。また図書委員会で作成した本の紹介POPを展示した。1日の平均図書館利用者は28.8名であった。	生徒の興味・関心をひく読書イベント等を企画し、図書館利用の活性化をはかる。	
	②文化祭の充実・向上	生徒会・学年・文化部との連携を密にしながら、全校体制で文化祭実施にあたり、積極的な生徒の参加を促す。	A	展示・舞台発表・模擬店・生徒会行事等、充実した内容で実施することができた。新たな試みとして模擬店の現金販売、2年文化委員によるイベントを行った。	文化委員によるイベントの充実その他、生徒が主体的に文化祭に参加出来る環境作りをはかる。	
体育活動・健康教育	①体力の向上と部活動の活性化	トレーニング方法の工夫や事前指導を実施し体カテストで県平均を4種目以上上回る。運動部加入率30%以上を目指す。	B	体カテスト県平均を上回った種目数、男子平均2種目、女子平均1種目。運動部加入率、男子49%女子21%全体38%。	生徒の体力向上については、継続して粘り強く取り組んでいく必要がある。女子の加入率を上げる工夫が必要である。	
	②保健指導の推進	教科保健の授業や保健だよりを通して、生徒の健康に対する意識を高める。	B	教科保健や、保健だよりの発行を通して生徒への啓発を図った。	学校全体で取り組んでいく必要がある。特に健康診断の事後措置の受診率が悪いので来年度は上がるよう取り組みたい。	
	③食育の充実	教科保健の授業や食育だよりを通して、食育の充実を図る。朝食摂取率75%以上を目指す。	B	食育だよりを6回発行。朝食摂取率が、毎日食べる昨年度70%今年度70%、食べない昨年度9%今年度11%にとどまった。	学校全体で取り組む必要がある。そのための資料を全先生方に提供していく。	
環境整備活動	①環境美化を通じて公共心の育成	教室やトイレなど共用箇所について、正しく使用する必要性を折に触れて生徒に展開する。	B	トイレの利用に関して担任からHR展開してもらうと一定期間利用状況は改善する。さらなる意識の定着に取り組む必要がある。	生徒昇降口など一時期に比べて整理整頓の進んだ箇所もあるのでHRや機会を見つけて繰り返し指導する。	
	②防災意識の向上	実践的な防災訓練を企画・実施する。	B	現段階で実施可能な防災訓練には取り組めた。	災害時に正しく行動できるための実践的訓練を実施するため関係機関とよく協議する。	
商業科	①検定取得の向上	各検定において補習講座などを実施し、生徒の進路実現に結びつくための指導を行う。	B	授業担当者は検定集中補習以外の指導にも良く取り組んだが、授業の進捗と目標級設定に検討の必要性がある。	普通教科の担任の先生方にも協力を得ながら、朝学習やBSを活用するとともに、HR内での検定取得に対する意識向上を図る。	
	②販売実習の充実	起業精神育成プログラム最終年度として、昨年の取り組みを踏まえ複数店舗の運営など内容の充実を図る。	B	ソラほんまちフェスタでは、販売店舗を増やしたことにより、体験の機会増には繋がったが指導の徹底に課題を残した。	行事が集中することの改善、及び販売実習指導教員役割分担の見直しを図る。	
情報科	①学習指導の充実	指導内容を精選し、生徒の実態に対応した授業の進め方を工夫して丁寧な指導を行う。	A	授業の進め方についてのきめ細かい工夫により、生徒の主体的な学習態度が形成されている。	継続して、指導方法の工夫、指導内容の精選に取り組む。	ハードウェアを中心とする専門学科「情報科」ならではの実習の充実
	②国家試験、検定合格率の向上	国家試験、各検定の合格者数を前年度の5%増しをめざし、補習等を充実させる。	B	検定の種類や級により、目標を大きく上回ったものもあるが、目標に到達できなかったものもあった。	継続して、補習等を含めた指導方法と受検時期等の検討改善に取り組む。	

A:十分である B:ほぼ十分である C:あまり十分でない